

県民への医師会からのメッセージ

新型コロナウイルスによって、世界が、大きな試練にさらされた1年でした。沖縄県でも、春と夏に2度の流行を経験しました。しかし、いずれも県民の皆様の協力のもとで乗り越えることができました。沖縄県の医療界を代表して、まず、心から県民の皆様に御礼申し上げます。

さて、いまでも医師や看護師、あるいは薬剤師など多くの医療従事者が、来る日も来る日も、それぞれの役割を担って全力で働いています。県民の皆様におかれましては、この感染症との闘いの最前線において、患者さんと向き合って、重症化していく過程を目の当たりにしている医療従事者に心を寄せていただければ幸いです。

いま冬を迎えて、新型コロナウイルスの全国的な広がりには、いまだ収まる気配がみられません。コロナウイルスには冬に流行しやすいという特性があるため、より強い対策をとっていかなければ、いまの流行を抑え込むことは困難だと考えられます。

沖縄県では、毎年、冬になると救急医療を担う病院の病床が満床となることが常態化していました。そして、これまでも救急医療の危機について皆様に訴えてきました。とくに今年は、新型コロナウイルスの流行によって事態が深刻化している特別な年です。

新型コロナに感染した患者さんのために確保している病床だけでなく、その他の患者さんのための病床が不足し始めているのです。あまりに多くの感染者が短期間のうちに入院するようなことになれば、新型コロナに対応する医療のみならず、他の疾患の患者さんの命を守る医療が提供できなくなる恐れがあります。このままの状態が続けば、医療崩壊に陥る可能性すら考えられます。

事態は深刻です。県民の皆様も深刻に捉えてくださるよう改めて訴えます。そのうえで、一人ひとりが何をすべきかについて、お伝えしたいと思います。

もっとも有効な解決策とは、新型コロナに感染する人を減らすことです。感染する人が減れば、危険に晒される高齢者や持病のある人も減ります。入院が必要な人には、できるだけよい医療が提供できるようになります。

幸いにも、このウイルスとの戦い方はかなり分かってきました。人が集まる場所に行くときは、できるだけマスクを着用すること。不特定多数が触れるモノに触ったときは、早めに手を洗うかアルコール消毒すること。発熱や呼吸器症状を認めるときは、外出を自粛し、仕事や学校を休むことで感染拡大が防げます。

しかしながら、いまだ流行は続いています。最近の傾向を分析すると、お酒を伴う宴会の場が重要な感染源となっていることが分かってきました。そして、感染した人が家庭や職場に持ち込み感染を拡大させています。

大丈夫だろうと軽く考えて忘年会を楽しんだり、延期できるはずの帰省をしてしまったりすることが、ひいては高齢者の感染につながりかねません。そこで、県医師会では、ここまでお話しした県内の厳しい医療状況を踏まえて、次の5点について県民の皆様呼びかけたいと思います。

- ①忘年会をひかえること
- ②帰省をひかえること
- ③年末年始のあいさつ回りは玄関先で短時間にすませること
- ④初詣は混雑の時間をさけ参道での飲食を控えること
- ⑤成人式は感染状況が落ち着くまで延期すること

県民の皆様の協力によって、必ずや、この危機を乗り越えることができると思います。このウイルスの流行を抑え込むため、ぜひとも力を合わせてゆきましょう。

最後に、いま、沖縄県の救急医療は健全に維持されていますので、どうか安心してください。体調が悪いときは、まず、かかりつけ医に相談して指導を受けてください。緊急性が高いと思われるときは、決して我慢することなく、救急外来を受診してください。

皆さんご自身と大切な人の健康に気をつけて、共によいお正月を迎えたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

令和2年12月14日

沖縄県医師会

会長 安里 哲好

